
九州大学箱崎キャンパス
跡地利用将来ビジョン検討委員会 第4回委員会資料（参考資料）

九州大学・福岡市

目次

構成	頁
意見募集結果について(【参考】導入施設への意見の例示)	1
九州大学箱崎キャンパス跡地利用に関するアンケート調査(調査票)	4
福岡市総合計画(福岡市基本構想・基本計画)の検討状況について	9
福岡市の財政構造と今後の見通し	10

意見募集結果について（【参考】導入施設への意見の例示）

意見募集の結果について（導入施設への意見の例示）

方針
1

福岡市の持続的な成長に資する
新たな活力・交流を生み出す

成長・活力
・交流

福岡都心部に近い大規模な土地利用が可能な土地であり、交通利便性の高い立地特性を生かしながら、「新たな産業・雇用の創出」「広域連携拠点づくり」「交流と賑わいの創出」等を進め、福岡市の持続的な成長に貢献する、**新たな活力・交流を生み出す**まちを目指します。

1) 新たな産業・雇用の場の創出

福岡都心部、九州大学病院地区、箱崎ふ頭・JR貨物ターミナル等との近接性を生かし、新産業創造に関わる企業やベンチャーの誘致など、新たな産業・雇用の場の創出を目指します。

【例】

○新産業創造機能

- ・知識創造型産業施設
- ・医療産業施設
- ・ベンチャー企業のオフィス など

○業務商業機能

- ・業務商業施設（地域商店街なども含む大型モール等）
- ・物流施設 など

2) 立地特性を生かした広域連携拠点づくり

福岡都心部に近く、大規模な土地を有し、交通利便性の高い立地条件を生かし、道州制導入など広域行政の見直しや国土全体の危機管理体制のあり方を踏まえた機能集積を目指します。

【例】

○広域行政機能

- ・広域行政機能や東京圏バックアップ機能を担う行政庁舎 など

3) 文化・スポーツ・コンベンションを通じた交流と賑わいの創出

空港や博多駅に近く、車での来街も容易な立地条件を生かし、福岡都市圏のみならず、北九州地域、中国地域、アジア地域からの集客も見込んだ文化・スポーツ・コンベンション等を支援・促進する施設の導入を検討します。

【例】

○コンベンション機能

- ・多目的スペース（展示、集会、会議、演劇、イベント） など

○スポーツ・交流

- ・体育館、競技場 など

○文化発信機能

- ・美術館（現代美術など）
- ・図書館（国会図書館、国際子ども図書館）
- ・映画ドラマ等の常設ロケ地、アニメテーマパーク
- ・演劇・ダンス専用劇場 など

方針
2

九州大学が存在した地として、
充実した教育・研究の環境を生みだし、人を育てる

教育・研究

九州の最高学府「九州大学」が百年存在した地としてのブランドを生かしながら、「新たな高等教育・研究機関の導入」「留学生・研究者等の受け入れ環境の活用」等を進め、**充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てる**まちを目指します。

1) 教育・研究の場としての新たな高等教育・研究機関の導入

九州大学が100年存在した教育や知の拠点としての経緯を踏まえ、**新たな教育・研究機関を導入し**、社会を牽引する個性と創造性の富んだ人材を育成する場として継承を目指します。

【例】

○教育・人材育成機能

- ・大学等の高等教育機関
- ・初等から中等教育が連携した小中及び中高一貫校
- ・市民の生涯教育の場
- ・社会人向けの大学、大学院、九大サテライトキャンパス
- ・アジア少数民族交流大学
- ・演劇学校 など

○研究・開発機能

- ・企業の研究・開発部門（製薬系、化学系分野等）
- ・九州大学病院等の高度医療施設と連携した医療研究施設
- ・環境、防災に関する研究拠点
- ・学内外発のベンチャー企業の研究室やオフィス など

2) これまでの外国人留学生、研究者等の受け入れ環境の活用

大学・短期大学等の高等教育機関の集積や、留学生や研究者をはじめとした外国人がすでに多く居住し、一定の受け入れ環境が整っていることを生かし、外国人研究者や留学生が暮らし、活動する場の創出を目指します。

【例】

○留学生等支援機能

- ・外国人、研究者等を対象とした居住施設
- ・外国人のためのワンストップ窓口
- ・国内の人材育成も兼ねた国際学生寮の導入 など

意見募集の結果について（導入施設への意見の例示）

方針
3

高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、**安全・安心・快適で健やかに暮らす**

安全・安心
・健やか

災害に強い地理的条件を生かすとともに、周辺の高度医療施設や生活利便施設の集積、交通アクセスの良さなどの高い利便性を生かして、「防災活動の場の創出」「医療・福祉・健康づくり環境の充実」「快適な居住環境の創出」を進め、**安全・安心・快適で健やかに暮らす**ことができるまちを目指します。

1) 災害に対応できる防災活動の場の創出

津波の危険性が少ないことや警固断層帯から離れている等、災害に強い地理的条件を生かし、災害発生等の緊急時における復旧・復興、物資の中継基地となる**広域防災拠点**や市民の避難場所などの**防災活動の場の創出**を目指します。

【例】

○防災機能

- ・防災ステーション、広域防災公園（広域支援部隊のベースキャンプ）
- ・東京圏の中核機能のバックアップ施設（**国のサーバー機能等**）
- ・地域住民の避難所となる公園
- ・**災害時の民生支援施設** など

2) 九州大学病院等の立地を生かした医療・福祉・健康づくり環境の充実

周辺に九州大学病院等の高度医療施設が立地する強みを生かし、箱崎地区住民が安心して暮らせるよう更なる**医療・福祉施設の誘導**を図り、それらと連携した**快適な住環境**を創出を目指します。

【例】

○医療・福祉機能

- ・九州大学病院等の高度医療施設と連携した医療・福祉施設
- ・**高齢者福祉施設** など

○健康増進機能

- ・トータルヘルスケアステーション（地域の健康維持・リハビリサービスの拠点）
- ・散策路の整備、**運動公園** など

3) 交通アクセス性などのポテンシャルを生かした快適な居住環境の創出

都心部への交通アクセスの良さや生活利便施設の集積などのポテンシャルを生かした**快適な居住環境の創出**を目指します。

【例】

○生活利便機能

- ・身近な商業施設、子育て支援施設、**保育所**
- ・**区役所の移転、箱崎中学校の移転** など

○居住機能

- ・生活利便性の高い居住機能
- ・**子供の遊び場** など

方針
4

千年のまち、大学百年の**歴史文化資源を大切に**する

歴史文化

千年以上の歴史を誇る筥崎宮や旧箱崎宿の町屋、百年の時を刻んだ箱崎キャンパスなど、箱崎のまち全体が有する「まちの生い立ちの継承」「九州大学の近代建築物の活用の検討」を進め、**歴史文化資源を大切に**するまちを目指します。

1) 周辺の歴史文化資源と連携するなど、まちの生い立ちを継承

箱崎地区は、古くは筥崎宮の門前町、糟屋郡の政治・経済の中心地、さらに明治以降は九州大学のある学問の殿堂として1000年以上の歴史を誇るまちです。

この歴史、伝統、文化のある箱崎のまちの生い立ちを踏まえ、**筥崎宮～唐津街道～地藏松原道等の歴史的・文化的な地域資源**を活用するなど、地域の個性を生かし、歴史文化を継承したまちを目指します。

【例】

- ・筥崎宮などの歴史文化資源をつなぐ歩行者回遊動線 など

2) 九州大学の歴史文化資源の活用

九州大学箱崎キャンパスには、大正から昭和初期にかけて建築され、特徴的な意匠を有する校舎が残っており、これら**近代建築物の活用**を検討します。

【例】

- ・近代建築物の保存活用（全面保存、部分保存、エレメント保存）
- ・近代建築物を記録として保存
- ・**九大の建物を活かした公園** など

方針
5

次世代の環境技術と豊かな緑を生かして
環境と共生し、持続可能なまちをつくる

環境・
エネルギー

地域の貴重な緑の空間であるキャンパス内の既存樹木を生かすとともに、九州大学の先進的な環境技術を活用し、「低炭素」で「水や資源を生かし」「緑・水辺との共生」を進め、**環境と共生し、持続可能なまちの形成**を目指します。

1) 低炭素なまちの創造

地球温暖化問題への対応と化石エネルギー資源制約からの脱却の点からエネルギーマネジメントの導入や、自然エネルギー、未利用エネルギーなどの再生可能エネルギーを活用します。

- 【例】
- ・エネルギーマネジメントの導入
 - ・水素・再生可能エネルギーの利用 など

2) 水や資源を生かすまちの創造

一級河川が市内に流れていないなど地理的に水資源に恵まれず、過去の異常少雨による渇水の経験がある福岡市において、健全な水循環の創造を目指した雨水や下水再生水の有効利用に努めるとともに、都市活動による廃棄物の再資源化等、循環型社会の形成を積極的に進めます。

- 【例】
- ・水資源の有効利用（再生水の活用等）
 - ・循環型システムの形成（資源循環ステーション） など

3) 箱崎キャンパスとその周辺にある緑・水辺と共生するまちの創造

箱崎キャンパスの既存樹木を踏まえた上で緑の配置を行うとともに、住民などの多様な主体による緑の管理の仕組みについて検討します。

- 【例】
- ・地蔵松原と称された松林などの既存樹木の保存・活用
 - ・多様な主体による緑の管理
 - ・多々良川、宇美川等の水辺を繋ぐ歩行者回遊動線
 - ・航空路直下に広い緑地帯の設置
 - ・貝塚公園の有効活用
 - ・既存樹木を活かした公園 など

九州大学箱崎キャンパス跡地利用に関するアンケート調査（調査票）

九州大学箱崎キャンパス跡地利用に関するアンケート調査（調査票）

■調査票

添付の「箱崎キャンパス跡地概要」及び「【参考資料】九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会 第1～3回委員会資料（概要版）」もご参照いただき、以下の設問にお答えください。該当する番号を○で囲むか、（ ）内にご記入ください。

Q1. 貴社／貴法人の基本情報についてご記入ください。

(ふりがな)				
貴社名／ 貴法人名				
所在地	〒			
ご回答者	ご所属		役職	
	ご氏名		電話	()
	FAX	()	Email	

～ 1 ～

Q2. 貴社／貴法人における事業等のご展開（新店舗設置、店舗統合、新事業所設置、事業所統合、新施設設置、施設統合、本社／事務局移設、支店／部局開設、開発素地の取得など）に伴う土地・施設需要や投融資の需要についてお答えください。

- | | |
|----------------------|-------------------------------|
| 1. 需要あり | } →1.2.を選択された方は、以下のQ3へお進み下さい。 |
| 2. 現在検討中又は今後検討の可能性あり | |
| 3. 現時点では需要なし | →3.を選択された方は、8ページのQ9へお進み下さい。 |

Q3. (Q2で1.もしくは2.と回答された方)

ご需要のある時期及びエリアについてお答えください。

(1番あてはまるものに◎、あてはまるものに○をご記入ください。(いくつでも))

① 時期

- | | | |
|---------|-----------|----------|
| 1. 2年以内 | 2. 3～5年以内 | 3. 6年後以降 |
|---------|-----------|----------|

② 場所

1. 福岡市内
2. 福岡県内
3. その他国内 ()
4. その他海外 ()

③ 場所 (1.福岡市内と回答された場合、さらに詳しく)

1. 天神エリア
2. 博多駅周辺エリア
3. 中央・博多ふ頭（ウォーターフロント）エリア
4. 箱崎エリア
5. アイランドシティ・香椎パークポートエリア
6. 九州大学学術研究都市エリア
7. その他エリア ()

～ 2 ～

九州大学では、現在、箱崎キャンパスから伊都キャンパスへの移転を進めております。平成17～19年に工学系地区が移転しており、今後、平成27年度に理学系地区、平成29・30年度に文系地区、平成31年度に農学系地区が、順次、伊都キャンパスへ移転し、平成31年度までに移転を完了する予定となっております。

それぞれエリアの移転後に箱崎キャンパスを売却していくにあたって、皆様が「箱崎キャンパス跡地」についてどのようにお考えなのかを把握することを目的に、需要の有無や魅力などについてお伺いします。

Q4. 箱崎キャンパス跡地での貴社／貴法人の土地・施設需要や投融資の需要の可能性についてどのようにお考えかお答えください。

1. 可能性あり →1を選択された方は、以下のQ5へお進み下さい。
2. 可能性なし →2を選択された方は、7ページのQ8へお進み下さい。

Q5.（Q4で1.と回答された方）

貴社／貴法人のご需要の形態がどのようなものかお答えください。
（1番あてはまるものに◎、あてはまるものに○をご記入ください。（合計3つまで）

1. デベロッパーとして全体又は一定規模の開発計画に参加
2. 土地を購入し、店舗・事業所・施設を設置
3. 土地を購入し、土地建物の分譲・賃貸事業を行う
4. 土地を賃借し、店舗・事業所・施設を設置
5. 土地を賃借し、土地建物の分譲・賃貸事業を行う
6. 建物床を購入し、テナントとして入居
7. 建物床を賃借し、テナントとして入居
8. 開発計画に対する投資・出資
9. その他（)

～ 3 ～

Q6.（Q4で1.と回答された方）

箱崎キャンパス跡地のどのようなところに魅力を感じましたか。以下の項目からお答え下さい。
（1番あてはまるものに◎、あてはまるものに○をご記入ください。（合計3つまで）
また、魅力を感じず、改善等が必要なものがあれば、×をご記入ください。（いくつでも）

<交通アクセス>

1. 福岡都心部へのアクセスが良好
2. 博多港、福岡空港へのアクセスが良好
3. 鉄道駅が近接（JR、地下鉄、西鉄）
4. 主要な幹線道路が近接
5. 都市高速道路のランプが近接

<周辺の立地状況>

6. 公共公益施設が集積
7. 商業施設が集積
8. 高度医療機関が立地（九大病院等）
9. 大学が集積（東区周辺）
10. 物流企業が集積

<土地利用>

11. 大規模な土地利用が可能
12. 幹線道路の沿道利用が可能
13. 今後の跡地開発に期待できる

<居住環境>

14. 居住環境が良好
15. 周辺人口が増加傾向
16. 外国人の受入れ環境が整っている。
17. 学区（東箱崎小、箱崎中学校）が良い
18. 文教地区としてのブランド、イメージ
19. 地域コミュニティが盛ん

<緑・自然・歴史文化・まちなみ>

20. 歴史的文化的資産が豊富（管崎宮等）
21. 樹木等の緑が豊富
22. 公園が近接（貝塚公園、汐井公園等）
23. 水辺の憩い空間（宇美川、多々良川等）
24. 商店街、住宅地のまちなみ

→右ページにつづく

～ 4 ～

<進出条件>

- 25. 商圏が自身の事業展開に合う。
- 26. 都市計画（用途、容積等の地域地区）の内容が適当
- 27. 就業（就学）環境に適している。

<その他>

- 28. 災害に強い地理的条件（津波の危険性がなく、警固断層帯から離れている等）
- 29. その他（ ）

Q7.（Q4で1.と回答された方）

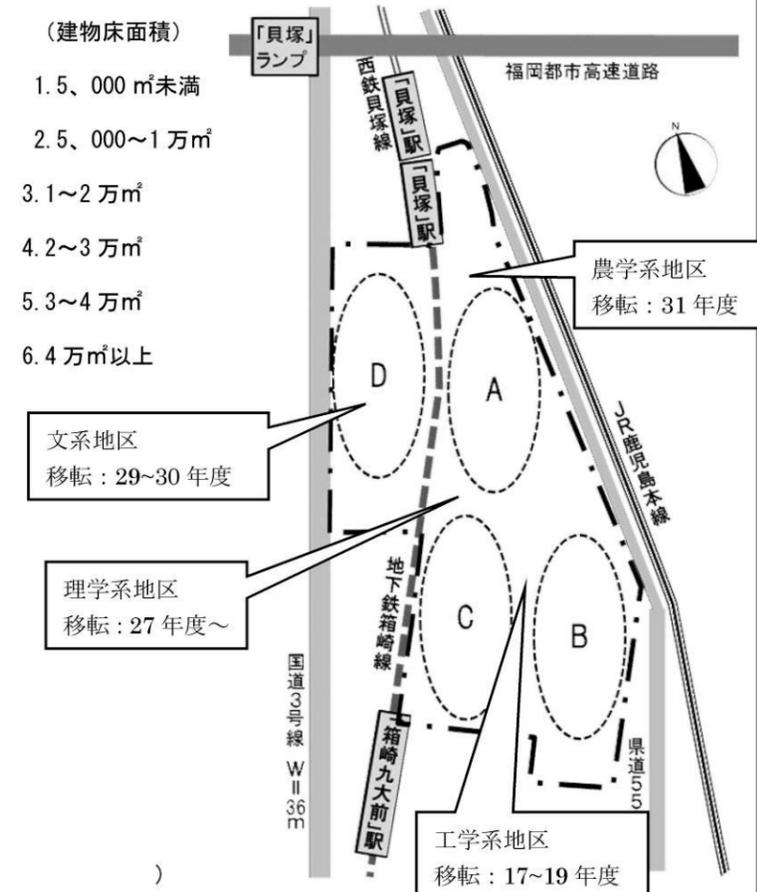
貴社／貴法人の希望または想定する敷地規模、用途及び位置についてお答えください。
（1番あてはまるものに◎、あてはまるものに○をご記入ください。（いくつでも））

① 希望施設規模

（敷地面積）	（建物床面積）
1. 5,000㎡未満	1. 5,000㎡未満
2. 5,000～1万㎡	2. 5,000～1万㎡
3. 1～2万㎡	3. 1～2万㎡
4. 2～3万㎡	4. 2～3万㎡
5. 3～4万㎡	5. 3～4万㎡
6. 4万㎡以上	6. 4万㎡以上

② 希望利用用途

- 1. 住宅
- 2. 病院
- 3. 学校
- 4. ホテル
- 5. 商業
- 6. 事務所
- 7. 倉庫
- 8. 工場
- 9. その他（ ）



③ 希望エリア（右図および添付の「箱崎キャンパス跡地概要」の1. 基本情報もご参照）

- 1. A （地下鉄及び西鉄の「貝塚駅」に近接）
- 2. B （近代建築物が多く存在）
- 3. C （地下鉄の「箱崎九大前駅」に近接）
- 4. D （主要幹線道路の沿道）

福岡市総合計画（福岡市基本構想・基本計画）の検討状況について（パブコメ原案）

福岡市総合計画（基本構想・基本計画）の検討状況について（パブコメ原案より）

- 福岡市総合計画（基本構想・基本計画）の検討状況について
- ・下記原案についてパブリックコメントを実施（H24.9.9～H24.10.10）
 - ・今年度中の策定を目指して検討中

福岡市総合計画の体系

福岡市総合計画は、福岡市の将来の健全な発展を促進するために策定する市政の総合的計画のことで、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3つで構成されています。

- 基本構想・・・福岡市が長期的にめざす都市像を示したもので、福岡市のさまざまな計画や市政運営の基本になるとともに、市民をはじめ、まちづくりに携わる産学官民の多くの主体が共有するものです。
- 基本計画・・・基本構想で定めた都市像の実現に向けた方向性を、まちづくりの目標や施策として総合的・体系的に示した10年間の長期計画です。
- 実施計画・・・基本計画を推進するにあたって、福岡市が取り組む具体的な施策や事業を示した4年間の中期計画です。

○福岡市基本構想（原案抜粋）

II 都市像

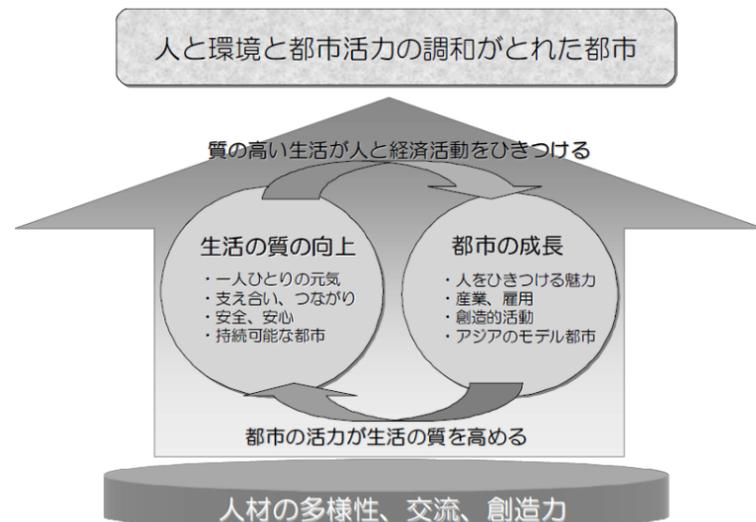
住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡

- 1 自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市
- 2 自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市
- 3 海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市
- 4 活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市

○第9次福岡市基本計画（原案抜粋）

都市経営の基本戦略

- (1) 生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す
- (2) 福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う



○福岡市基本計画（原案）【都市空間構想図】における箱崎キャンパス地区の位置づけ



・東区のまちづくり目標（抜粋）

○歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち

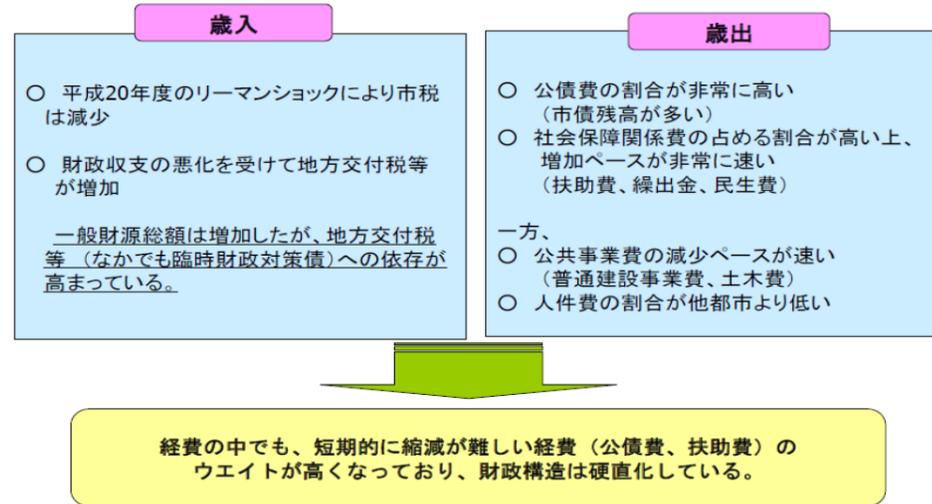
東区のシンボルとなる行事や歴史・文化的な資産の魅力を磨き、海・川・山の水辺や緑などの自然環境を守り、これらの地域の魅力、特色を生かしたまちづくりを進めます。

また、九州大学の移転に伴う箱崎キャンパス跡地は、将来の都市活力の一端を担うポテンシャルを有しており、既存施設の活用、土地利用の転換による新たな都市機能の導入などの検討を進めます。

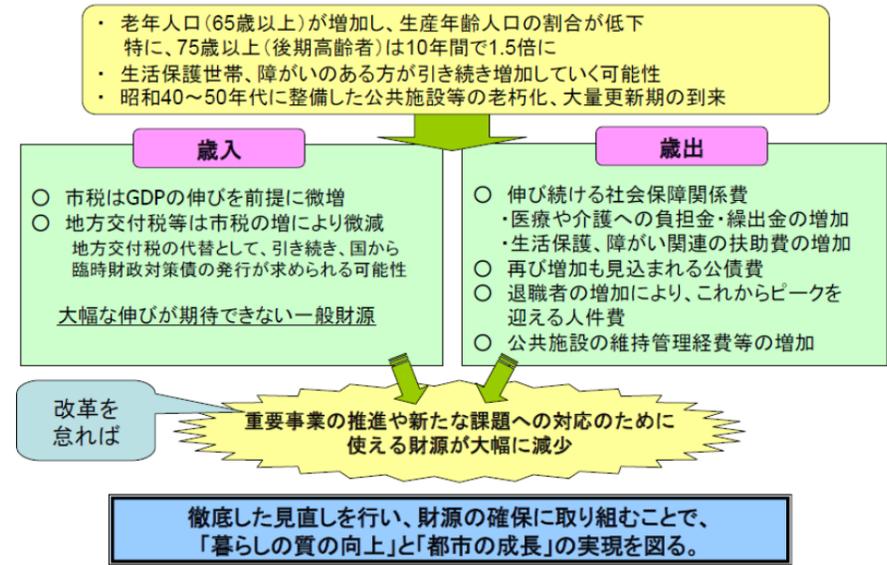
福岡市の財政構造と今後の見通し

(「第1回・第3回 自立分権型行財政改革に関する有識者会議」資料等より抜粋)

福岡市の財政状況について（概要）



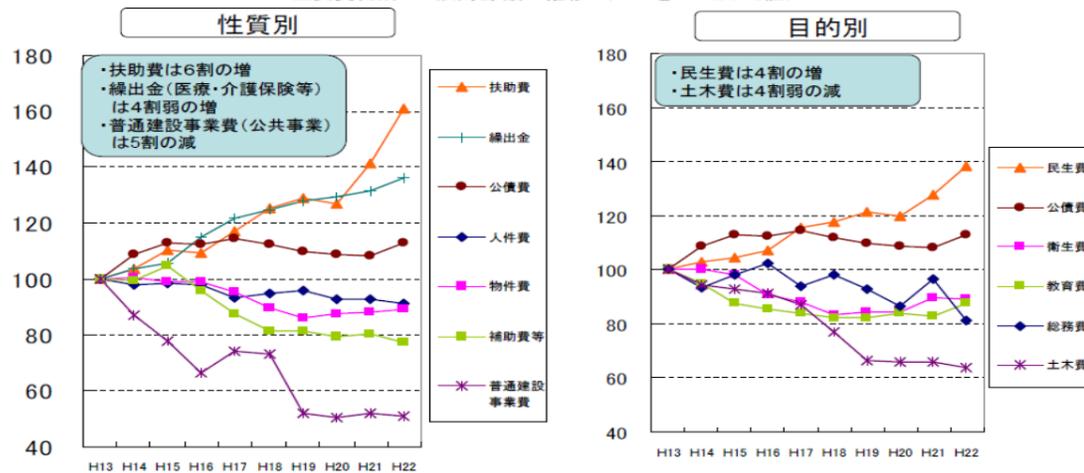
福岡市の財政見通しについて（概要）



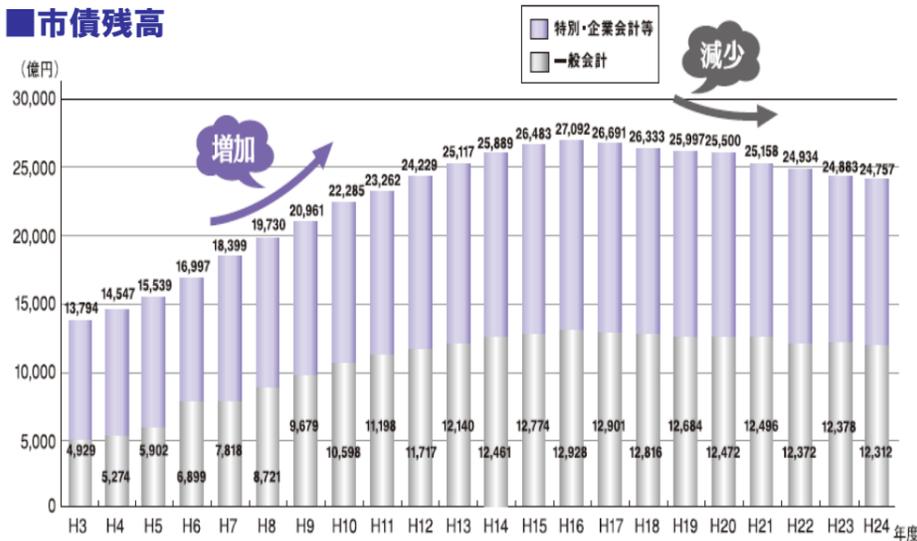
歳出の過去10年推移

・ 近年、高齢化や公債費の高止まりに対応して、義務的な経費を除く経常的な経費にあつては毎年5%～10%、投資的な経費にあつては15%～20%ずつ圧縮した予算配分を行っており、市債の発行抑制も加わって、以下のような構造の変化が生じている。

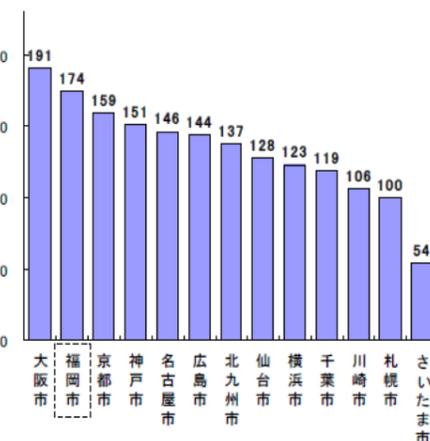
＜主要費目別 一般財源額の推移（H13を100とした値）＞



市債残高



市民一人あたりの市債残高（全会計・H22決算）

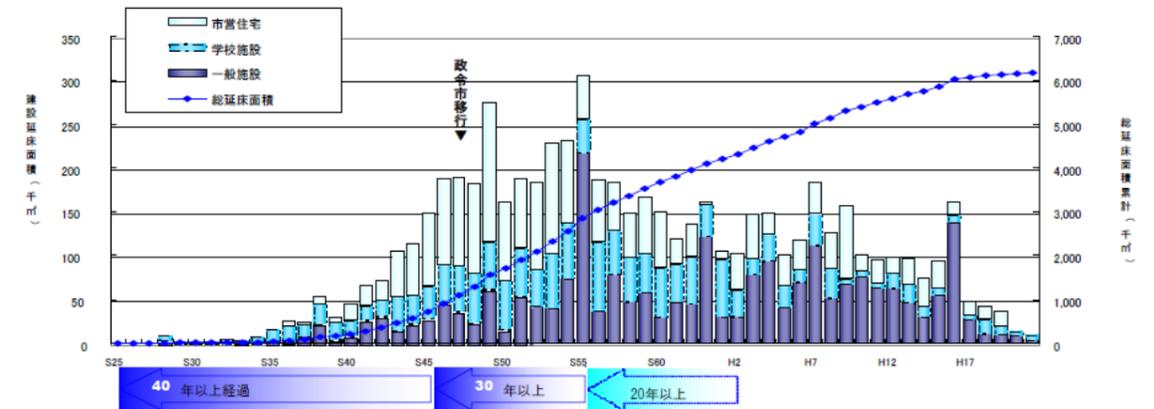


公共施設等の維持保全・長寿命化費用の増加

・ 昭和40年代から50年代にかけて、高度経済成長期や政令市移行期に大量の市有建築物が整備されており、これらの老朽化が始まっている。

・ そのため、平成22年度にアセットマネジメント実行計画を策定し、施設の長寿命化に取り組んでいるところであるが、実施にかかる経費が大きく増加していく見通しである。

市有建築物整備の推移



一般財源総額と経常的な経費の見通し

